

（様式1）

松 高 第 633 号

令和5年3月17日

高等学校教育課長 様

学番 20 村松高等学校長

魅力と活力ある学校づくり推進事業について、下記のとおり報告します。

記

村松高等学校

【テーマ】 地域と連携した進路実現を目指して
～地域と共に1UP～

【目標】

本年度、本校敷地内に開校した県立五泉特別支援学校村松分校との様々な交流を通し、医療、看護、介護、福祉、教育、情報等の分野への興味・関心を高め、地域の諸課題の考察や課題解決を目指したインターンシップなどを行いながら、未来の五泉・村松の地域社会を支える人材育成を目指す。

また、計画実施にあたっては、生徒のやる気を引き出し、生徒の夢を叶えさせる進路指導の実践によって、学校の活性化、魅力化につながる教育活動となるよう取り組む。

進路意識の啓発を行うことで、自らの課題を発見し解決に向けた取組ができるよう、総合的な探究の時間の充実を図る。

【取組の概要】

- ・ 全学年を対象とした医療、看護、介護、福祉、教育等に関する研修の実施
- ・ 1学年を対象とした上級学校見学の実施
- ・ 1学年を対象とした情報に関する研修の実施
- ・ 2学年を対象としたインターンシップ事前指導の実施
- ・ 3学年を対象とした企業説明会の実施

【取組の成果】

- ・ 全学年を対象とした医療、看護、介護、福祉、教育等に関する研修で、地域の医療、看護、介護、福祉、教育等の状況を理解するとともに、医療、看護、介護、福祉、教育等への関心や意識が高まった。
- ・ 1学年では上級学校見学を実施することで、早期に進路意識を啓発することができた。
- ・ 1学年では情報に関する研修で、理工系分野の学びや進路への関心や意識が高まった。
- ・ 2学年ではインターンシップを実施するとともに、マナー講習会や面接指導により、次年度の進路実現に向け意識が高まった。
- ・ 3学年では「五泉市合同企業説明会」を実施することで、一人一人の確実な進路実現に結びつけた。

取組の詳細

(1) 研修・講演会の実施

① 「介護や福祉に関する研修①」 【1・2学年】

ア 目的

地域の介護や福祉の状況について話を聞き、介護や福祉への関心や意識を高める。

イ 実施状況

実施日 令和4年6月29日（水）5限

会場 本校第1体育館

講師 社会福祉法人みどり心育会みどり多機能ホーム 管理者 関川 朋恵氏 他

演題 「車椅子体験、高齢者疑似体験」

ウ 生徒の様子

車椅子や装具などを用いた体験的な学習を通して、介護を提供する側と受ける側の両面から介護や福祉の現状を理解しようと意欲的に臨んでいた。



エ 成果と課題

体験を通じた学習により、実感を持って理解を深めたことが、生徒作成のレポートから判断できる。

介護の場面で職員が行う明瞭で的確な指示は、様々な場面で生かされると生徒が再認識する機会となった。

② 「介護や福祉に関する研修②」 【1・2学年】

ア 目的

地域の介護や福祉の状況及び具体的な介護・福祉の仕事について話を聞き、介護や福祉への関心や意識を高める。

イ 実施状況

実施日 令和4年12月6日（火）5限

会場 本校第1体育館

講師 特定非営利活動法人みどり心育会グループホームありがとうの家

管理者 嶋田 千奈美氏 他

演題 「認知症について」

ウ 生徒の様子

高齢者を支える介護施設の職員から、認知症の種類や特徴等について説明を受けるとともに、グループワークでは高齢者と高齢者を支える家族等がどのようなことに困難を感じているかを考え、話し合い、発表する活動に意欲的に臨んでいた。



エ 成果と課題

「もしも自分が認知症になってしまったら」をテーマに自ら考え、話し合い、発表する活動を通して、高齢者福祉への関心を深めたことが生徒作成のレポートから判断できる。相手の状況を判断して行動する大切さを生徒が再確認する機会となった。

③ 「介護や福祉に関する研修③」 【1・2学年】

ア 目的

【魅力と活力】実施報告（村松高校）

地域の保育の状況及び具体的な保育の仕事について話を聞き、保育への関心や意識を高める。

イ 実施状況

実施日 令和5年2月8日（水）5限

会場 本校第1体育館

講師 社会福祉法人みどり心育会村松さくらこども園 園長 星野 久子 氏 他

演題 「保育士ってどんなことをするの？ ～カレンダー（折り紙製作）を作ってみよう～」

ウ 生徒の様子

保育士の指導のもと、グループ内で作業を分担しながら製作活動を行った。和やかな雰囲気ながら、保育現場の一端を理解しようと意欲的に体験的な学習に臨んでいた。



エ 成果と課題

グループでの作業を通して保育士の仕事への理解を深めたことが、生徒作成のレポートから判断できる。保育士は、子どもに緊張感を持たせぬよう明るい表情と話し方が大切であること、周囲をよく見て危険を察知し事故を未然に防ぐよう努めていることを知り、学校生活においても人との接し方や周囲への気配りを大切にすべきだと生徒が再確認する機会となった。

④「医療に関する研修」【1・2学年、3学年希望者】

ア 目的

医療系専門学校の職員からの講話を通して、地域医療や、医療に従事する様々な医療スタッフに関する状況を学び、医療への関心や意識を高める。

イ 実施状況

実施日 令和4年10月13日（水）5限

会場 本校第1体育館

講師 晴陵リハビリテーション学院 事務長 五十嵐 孝之 氏

演題 「医療の仕事について」

ウ 生徒の様子

様々な医療職について、必要な資格や業務内容等について聞き、仕事とやりがいについて理解しようと真剣に話を聞いていた。

エ 成果と課題

医療の現状や課題及び様々な医療職について理解を深めたことが、生徒作成のレポートから判断できる。医療職は感性が大切であるためAIに代替されにくい仕事であること、職業選択の際は自分が知っているものからしか選べないものだと聞き、コミュニケーション能力を磨き、様々な仕事に目を向けることが大切だと生徒が再確認する機会となった。

⑤「情報に関する研修①②③」【1学年】

ア 目的

情報系学校と連携し、1学年で情報に関する現状を学び、情報分野への関心や意識を高める。

イ 実施状況

【魅力と活力】実施報告（村松高校）

実施日 令和4年7月28日（水）1限
令和4年9月21日（水）5限
令和5年1月25日（水）5限

ウ 生徒の様子

高校生への指導経験豊富な講師から理系分野の進学・就職に関する講義を聞き、理系の学部や仕事、必要なスキル等について理解しようと話を聞いていた。



エ 成果と課題

理系の進学や就職について理解を深めたことが、生徒の事後アンケートから判断できる。生徒は高校生活を通して向上させたい能力として、毎日の授業で学力を身に付けることの大切さやコミュニケーション能力を磨くことの必要性を再確認する機会となった。しかし、本研修の目的を講師に明確に示さなかったことから、他の行事との重複が生じてしまったので、今後、各種教育活動においてそれぞれの目的を達成するために、事前の打合せを綿密に行なわなければならない。

⑥ 「マナー講習会」（インターンシップ事前学習）【2学年】

ア 目的

夏季休業中に行うインターンシップに向けて、マナー全般の重要性を理解させる。

イ 実施状況

実施日 令和4年7月13日（水）5限

会場 本校会議室

講師 新潟ビジネス専門学校 教務部次長 就職相談室室長 平馬 みどり 氏

ウ 生徒の様子

インターンシップ実施前に、基本的なビジネスマナーを身に付けるとともに、就職活動への意識を高めることを目的に実施した。全員が緊張感をもって講習に臨んでいた。自分の意思を十分に伝えるためには、先ず見た目・身だしなみが大切であること、言葉遣いが大切であることを認識し、普段の自分自身の姿を見直すきっかけとなったようである。

エ 成果と課題

理屈ではわかっている日常生活の中で、「礼儀、身だしなみ」を「普通」にしていくには時間がかかると思われる。今後は、挨拶は勿論、普段の身だしなみについても自分自身で意識していくことができるような指導を考えていく必要がある。

⑦ 「面接対策講演会」【2学年】

ア 目的

次年度の進学及び就職等の面接試験を見据え、その重要性を理解するとともに、基本的な面接マナーを習得する。

イ 実施状況

実施日 令和5年1月18日（水）5・6限

会場 本校会議室

講師 新潟ビジネス専門学校 教務部次長 就職相談室室長 平馬 みどり 氏

ウ 生徒の様子

具体的な事例を挙げて細かく説明していただき、生徒は熱心に聞いていた。

内容が分かりやすく、講師の先生も生徒に質問するなど、生徒は緊張感をもって臨めた様

【魅力と活力】実施報告（村松高校）

子であった。

エ 成果と課題

進学希望・就職希望にかかわらず、面接に向けた対策は重要であり、基本的な面接マナーを学ぶことから始めるが、習得・実践できるよう日々の生活を見直すことが併せて必要である。3学年に向けて、生徒が自己を見つめ直すよい機会となった。

(2) 「上級学校見学」【1学年】

ア 目的

1年生の早い段階から、大学・短大・専門学校等の上級学校を見学することにより、進路実現のために、進学という選択肢があることを意識させる。

イ 実施状況

実施日 令和4年8月23日（火）

会場 新潟市内大学・短大・専門学校

ウ 生徒の様子

生徒は見学先の学校で説明を熱心に聞くとともに、講師に質問をするなど、充実感をもって臨めた様子である。



エ 成果と課題

本校は就職希望者に比べ、大学・短大・専門学校等への進学希望者はやや少ない傾向にあるが、希望する進路実現のために、進学も視野に入れることにより、学習のみならず学校生活全般を一層意欲的に過ごそうと意識する機会となった。



(3) 「五泉市合同企業説明会」【3学年・2学年】

ア 目的

五泉市内の企業の事業内容などを知ることによって、自らの就職活動へとつなげさせる。

イ 実施状況

実施日 令和4年6月15日（水）

会場 本校第1体育館

ウ 生徒の様子

生徒は希望する事業所のブースに分かれ、事業所職員の説明を熱心に聞くとともに、質問をして事業内容等について理解を深めるなど、充実感をもって臨めた様子である。

エ 成果と課題

五泉市内の約20事業所が集う一大イベントであり、地元就職希望者の多い本校生徒にとって、地元企業を知るまたとない機会となっている。次年度は2年生にも見学だけでなく、3年生とともに参加させて早期に就職への意識を高めさせたい。



(4) 取組の成果

- 1学年では上級学校見学や情報に関する研修を実施することで、早期の進路意識の啓発ができた。
- 2学年ではインターンシップを実施するとともに、マナー講習や面接指導により進路意識を

【魅力と活力】実施報告（村松高校）

一層高めさせた。

- 1・2学年では介護・福祉、保育の研修での体験的な活動を通して、各業種の面白さや大変さを感じることができた。
- 3学年では企業説明会、各種進路ガイダンスを実施することで、一人一人の確実な進路実現に結びつけた。

(5) 総合所見

○ 進路希望の決定状況

例年2月に県教育委員会が「学校生活等に関する意識調査」（1、2学年対象）を実施している。右の表1は、「高校卒業後の進路希望は決まっていますか」という問いに対する回答のうち、本校生徒が「はっきりと決まっている」及び「漠然と決まっている」と回答した割合を示している。本年度は総計が70.3%と昨年比で2.1ポイント減少した。また、表2は、「自分の生まれ育った地域に将来貢献したいと思いますか」という問いに対する回答のうち、本校生徒が「そう思う」及び「どちらかというと思う」と回答した割合を示しており、総計で82.8%と昨年比で5.7ポイント上昇した。五泉市合同企業説明会、地元の社会福祉法人による介護・福祉、保育に関する研修等を実施し、未来の五泉・村松地域の社会に貢献しようとする意欲をさらに高め、高校卒業後、または上級学校進学後の地元企業等への就職につなげたい。

表1

「高校卒業後の進路希望は決まっていますか」				
	令和元	令和2	令和3	令和4
1学年	61.0	78.0	67.6	72.2
2学年	70.8	63.6	75.5	67.9
総計	64.8	69.8	72.4	70.3

表2

「自分の生まれ育った地域に将来貢献したいと思いますか」				
	令和元	令和2	令和3	令和4
1学年	本質問項目なし		67.6	71.1
2学年			81.8	92.9
総計			77.1	82.8

○ 来年度に向けて

本年度3月卒業生は新型コロナウイルス感染症対策のため、2年生のインターンシップ等が実施できなかったが、教職員の指導とそれに応える生徒の取組みにより、進路希望達成率100%を実現した。次年度の3学年も今年度以上の成果が上がるよう他の教育活動とのつながりを明確にして取り組む。

(6) 今後の取組予定

これまで本校の教育活動では、まとめ・表現する活動がレポート作成にとどまることがあったため、次年度から総合的な探究の時間を再構築し、1学年で地域をテーマにした探究活動に取り組むとともに、全学年で学校行事等の際に展示、発表を行い、生徒の思考、判断、表現力を一層伸ばす。同時に、本校の教育活動を地域に周知し、本校の実情を理解していただき、生徒募集にもつなげていく。

次年度は本推進事業3年目の最終年となる。本年度までに実施してきたものの多くは次年度も継続実施とするが、医療、看護、介護、福祉、教育等の分野に関する講演等については実施回数等を変更する見込みである。

なお、本事業終了後、仮に予算措置がなくとも活動が継続できるよう、関係機関と連携を深めるとともに新規開拓にも取り組んでいく。